

1. 本書のねらい

1 - 1 本書の目的

1) 背景

近年、少子高齢・人口減少社会の本格的な到来をはじめ、わが国の都市をとりまく社会情勢が大きく変化する中、市街地における道路空間について、一体的な景観形成や地域づくりの観点から、公共空間としての多様な機能が見直されている。また、地方財政の厳しい状況が続く中、道路をはじめとする社会資本についても、既存ストックの再整備と有効利用を通じた効果的なマネジメントが求められている。

こうした状況を受け、かつて一般的だった現道拡幅を伴う都市計画道路の整備に対し、幅員再構成や施設更新による道路空間の再構築が注目されるようになってきた。また、公共事業における市民参加や社会資本マネジメントにおける官民連携に向けた議論が活発化する中、エリアマネジメントやまちづくり活動との連携を図りながら、沿道の施設・サービスや地域活動と一体となった道路を核とした地域づくりの展開が求められている。

2) 事例の選定

そこで、近年の市街地における道路空間再編・利用の動向を把握するとともに、今後の道路行政や民間のまちづくり活動にとって参考となるアイデアやノウハウを蓄積するべく、全国各地における道路空間再編・利用の取り組みを収集した。2000 年以降に完了した事業を中心に、事業年度が古いものや事業中のものについても、今後の道路空間再編・利用にとって示唆のある特徴的な取り組みについては、収集の対象とした。

本書は、この中から特に新規性・汎用性の高いものを対象に、基礎自治体による道路整備をはじめ、国・都道府県・市区町村・民間など様々な事業主体による道路空間再編・利用の事例を 100 件選定し、道路空間の諸元、事業の目的、実施体制、整備内容、他事業との連携、事業効果等に関する調査を行い、その内容を取りまとめたものである。

なお、本書に採録された事例は、道路空間再編・利用に係るデザイン上の工夫やマネジメントの体制、合意形成の図り方等、多岐にわたる実践的なアイデアやノウハウの共有を目的として選定されたものである。従って、所謂ベストプラクティス集のような性格のものではなく、部分的には課題を残す事例や改善の余地がある事例も多数含まれている点に留意されたい。

3) 目的

本書は、これまで全国各地における実践を通じて培われてきた、道路空間再編・利用に係るアイデアやノウハウを提示し、今後、道路空間再編・利用を検討・実践する上での参考資料として利用されることを目的としている。時代や地域のニーズに適合した質の高い道路空間を実現するには、標準的な仕様や従来通りの枠組みに捉われない、自由な発想に基づく様々な創意工夫が求められる。本書は先進事例の中から再編・利用のエッセンスを学ぶとともに、具体的な課題解決のためのヒント集として役立てられたい。

道路空間再編・利用の手法に絶対解は存在せず、目的と条件に応じたデザイン、マネジメント手法、並びに事業スキームを採用することが非常に重要である。本書は、100 件を数える豊富な事例について、ポイントとなる事項はもちろん、道路空間および事業内容に係る基礎的な情報を整理することで、目的と条件に応じた再編・利用手法を構築する上での一つの判断材料となることを目指している。

なお、実際に再編・利用手法を選択・実践する段階では、利害の異なる関係者の合意形成や法制度・基準類との整合、デザイン・マネジメント上の細かい工夫など、技術的事項の検討が必要となる。これらの具体的な課題解決のアイデア・ノウハウについては、紙面の都合により本書で紹介しきれないものも多く、関連の国総研資料（p.7 参照）や現地視察、関係者へのヒアリングにより、情報を補足することを推奨したい。

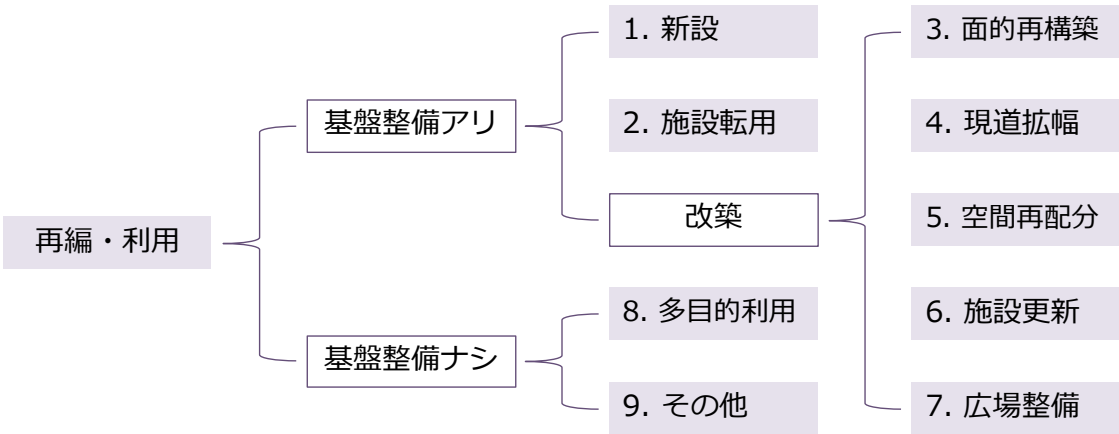
4) 対象

本書は、道路整備やまちづくりに係る行政職員をはじめ、民間のコンサルタント業者や設計事務所、各種まちづくり組織、学識経験者等、道路空間再編・利用に係る全ての主体をターゲットとしている。

- ① 行政職員：道路管理者、まちづくり担当者、交通施策担当者、企画調整担当者
- ② 民間業者：コンサルタント業者、設計事務所、開発業者
- ③ まちづくり組織：まちづくり会社、エリマネ協議会、商店街組合、地権者組合
- ④ 学識経験者

1 – 2 道路空間の再編・利用とは

本事例集が対象とする「道路空間の再編・利用」とは、市街地における道路空間の改築・利活用、道路網の再構築により、道路空間の質的向上や機能拡充を図る取り組みである。具体的な手法については、道路空間に対する操作に着目した場合、以下の9つの手段（新設、施設転用、面的再構築、現道拡幅、空間再配分、施設更新、広場整備、多目的利用、その他）に分類することができる。



- 1. 新設 : 土地利用の転換を通じて新たに道路を整備したもの
- 2. 施設転用 : 建築物のセットバック等を伴うことなく、鉄道の廃線敷や河川・用水路等の敷地を転用して道路空間を整備したもの
- 3. 面的再構築 : 市街地再開発や土地区画整理等の面的開発により、地区内の道路網を一体的に再構築したもの
- 4. 現道拡幅 : 沿道の土地利用を転換し、道路の幅員を広げたもの
- 5. 空間再配分 : 歩車道の幅員構成を変更したもの、または路面標示の変更により車道と路側帯の幅員構成を変更したもの
- 6. 施設更新 : 歩道形式の変更や舗装の美装化など、道路幅員や幅員構成はそのままに路面や附属物の再整備を行ったもの
- 7. 広場整備 : 廃道や兼用工作物の指定等を通じて、専ら歩行者の利用に供される広場空間を整備したもの
- 8. 多目的利用 : 道路占用や社会実験によりオープンカフェやサイクルポート等を設置したもの
- 9. その他 : 将来的な基盤整備に向けた路線指定等のみ行ったもの

※ 1～7 と 8、及び 3～5 と 6・7 は、必ずしも独立したものではなく、重複し得るものである。

<各手段の採用例>



新設
67. 南海中央線（高石市）



施設転用

36. 東横フラワー緑道（横浜市）



面的再構築

60. 四番町スクエア（彦根市）



現道拡幅

38. 三国街道塩沢宿 牧之通り（南魚沼市）



空間再配分

61. 四条通（京都市）



施設更新

42. 金澤表参道（金沢市）



広場整備

39. 富山グランドプラザ（富山市）



多目的利用

57. 長者町ウッドテラス（名古屋市）

1 – 3 本書の使い方

(1) 事例検索・情報検索の考え方

本書は、全国各地における実践のレビューを通じて、道路空間再編・利用を検討・実践する上での判断材料を提供することを目的としている。再編・利用手法を検討するにあたり、当該路線の交通需要、周辺地域の交通容量、地域における当該路線の位置づけ、道路空間の規模、沿道の土地利用、まちづくり上の課題等、目的と条件に応じた手法を採用することが重要である。

個々の道路空間を取り巻く条件は千差万別であり、ある道路空間において課題解決に寄与した手法が、他の道路空間においても同様に効果的であるとは限らない。各事例において採用されたアイデアが何を目的としたものであるか、なぜそのような手法を採用する必要があったのかを理解した上で、検討中の路線とその周辺地域の各種条件を意識しながら、実際の事業を検討・実践する上での判断材料とされたい。

各事例を参照するにあたり、利用者のニーズに応じた事例の検索ができるよう、各種項目に基づくインデックスを一覧表で巻末に掲載している。再編・利用のパターン、事業の背景・目的、再編・利用の手段、道路の性格・沿道特性、道路の空間構成等、様々なインデックスに基づきながら、当該路線を各事例と照らし合わせ、参照すべき事例・ポイントを探し出して欲しい。

利用者のニーズ	検索のインデックス
再編・利用の目的と手法が明確な場合	再編・利用のパターン
道路交通や沿道地域の課題が明確な場合	事業の背景・目的
実施する整備内容が明確な場合	再編・利用の手段
当該路線の地域における位置づけが明確な場合	道路の性格・沿道特性
再編後の道路規格や幅員構成等が明確な場合	道路の空間構成

なお、各事例の内容については、その全体像が把握できるように基本的な情報を網羅しながら、特に参照すべき項目に関する情報を、各事例につきA 4 × 4 ページに集約している。写真、図表を多用しながら分かりやすい説明を心掛けてはいるものの、紙面では伝わらない情報や誌面の都合により掲載できなかった情報も多い。関心のある事例については、実際に現地を訪れて使われ方や見え方・スケール感等を確認するとともに、関係者へ直接問合せ、より詳細な情報を手にすることを推奨したい。

(2) 関連資料

道路空間の再編・利用に関連して、本資料と併せて以下の資料も活用されたい。

<国総研資料>

事業の進め方を知りたい



地域づくりを支える道路空間再編の手引き (案)

国総研資料第1009号 (国土交通省国土技術政策総合研究所、平成30年2月)

道路空間再編の検討・実施に取り組む実務者が直面する課題とその解決策を解説

- ・ 事業段階毎に実践上の課題を整理した上で、各課題の解決に向けた基本的な考え方と具体的な留意事項を分かりやすく解説
- ・ 具体的な課題解決のアイデアを国内外の事例に基づきながら解説
- ・ 国内外の学ぶべきポイントが多いベストプラクティスを紹介

デザインの考え方を知りたい



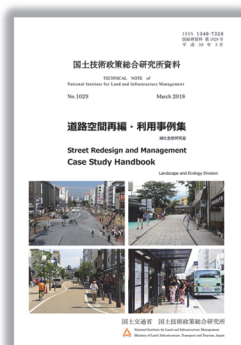
まちなかにおける道路空間再編のデザインガイド

国総研資料第1026号 (国土交通省国土技術政策総合研究所、平成30年3月)

道路空間再編におけるデザインの基本的な考え方や具体的なポイントを解説

- ・ 道路空間の機能拡充・質的向上に資するデザインの基本的な考え方を説明
- ・ 機能・空間形態別の13のデザインパターン毎に、デザイン上のポイントを計画レベル・設計レベルに分けて、分かりやすく解説
- ・ 具体的なデザイン上の工夫を豊富なパース・図面を用いながら紹介

参考となる事例を知りたい



道路空間再編・利用事例集【本資料】

国総研資料第1029号 (国土交通省国土技術政策総合研究所、平成30年3月)

全国各地における道路空間再編・利用の取り組み事例100件を紹介

- ・ 各事例の参照すべきポイントを示しながら、事業の概要、整備前後の変化、事業の背景・目的、取り組みの実施体制、整備内容、関連事業、事業効果等、各事例の基本情報を整理
- ・ 様々なインデックスを用いた読者のニーズに応じた事例検索が可能

<国の技術指針等>

- ・ 「道路のデザインー道路デザイン指針 (案) とその解説ー」
道路のデザインに関する検討委員会, 平成 29 年 11 月
- ・ 「道路デザイン指針 (案)」道路のデザインに関する検討委員会, 平成 29 年 10 月
- ・ 「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」道路のデザインに関する検討委員会, 平成 29 年 10 月
- ・ 「道を活用した地域活動の円滑化のためのガイドラインー改定版ー」国土交通省道路局, 平成 28 年 3 月
- ・ 「良好な道路景観と賑わい創出のための事例集」国土交通省道路局, 平成 26 年 3 月
- ・ 「社会実験: 道路施策の新しい進め方」国土交通省道路局, 平成 20 年 3 月
- ・ 国総研資料第 433 号「景観デザイン規範事例集 (道路・橋梁・街路・公園編)」
国土交通省国土技術政策総合研究所, 平成 20 年 3 月



駅前広場と一体となったシンボルロードの整備にあたり、幅員再構成による公共交通と歩行者中心のトランジットモールを実現
大手前通り（兵庫県・姫路市）



多目的利用が可能なまちなか広場を沿道の民間開発と一体的に整備し、都市計画広場と道路の兼用工作物協定を締結
北3条広場（北海道・札幌市）